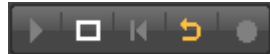


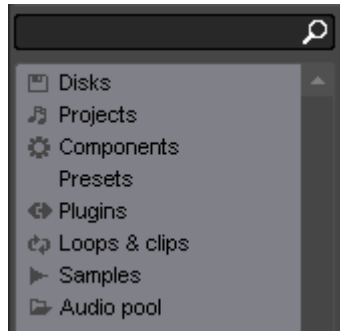
## Tutorial 1: Energy XT 概要

### トランスポート コントロール



トランスポートコントロールによって、ストップ、リワインド、ループのオン/オフ、レコードを行います。現在のソングポジションが右に表示されます。

### ブラウザ



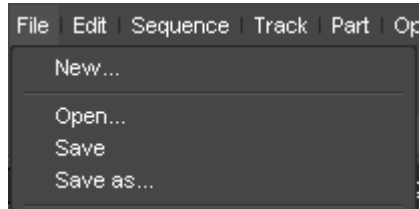
ブラウザはアレンジメントウィンドウヘドラック&ドロップによってコンテンツを適応させたりインポートしたりします。新しいソングを作成するために必要なビート、ベース、ループ、シンセサウンドやオーディオエフェクトなどが含まれています。

### シーケンサー



シーケンサーモードでレコーディングやアレンジをします。

### 新しいプロジェクトを作成する



新しいプロジェクトを作成するには、“File”メニューの“New...”を選択します。マルチトラックやMIDIシーケンス等のレコーディング状況に応じたプリセットを“New project”ダイアログウィンドウで選択することができます。

### 既存のプロジェクトを開く

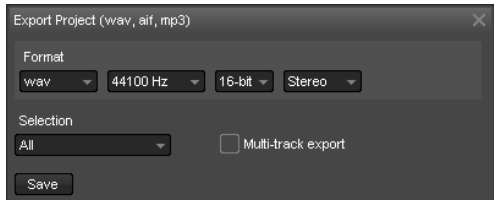
“File”メニューの“Open...”の選択によって既存のプロジェクトを開くことができます。

### プロジェクトを保存する。

“File”メニューの“Save as...”の選択によって現在のプロジェクトを保存することができます。ダイアログボックスに名前を入力し、[OK]をクリックして保存します。

### ミックスを他の機器で再生する

トランスポートコントロール右隣にあるエクスポートの ▶ ボタンをクリックすることによって“Export project”ダイアログウィンドウが開きます。



MP3 や WAV ファイルに変換してポータブルプレーヤー等他の機器で再生することが可能です。

### ヒント

- 頻繁にプロジェクトを保存するよう心がけましょう。電源が落ちるのは予測できませんからね。
- File > Setup > Shortcuts でキーボードショートカットを設定できます。
- [www.energy-xt.com](http://www.energy-xt.com)でEnergy XTさらに詳しい情報を得ることができます。また、フォーラムでは質問したりEnergy XTを使っている仲間との情報交換ができます。

## Tutorial 2: ドラムループを作る

ここではドラムループについて学びます。

### ドラムトラックを追加する。

ドラムトラックを追加するにはトラックパネル上部の ≡ + ボタンをクリックし“Drum Sampler”を選択します。



### ドラムループを当てはめる

ブラウザ“Loops & clips”セクションからドラムループをドラッグ&ドロップします。



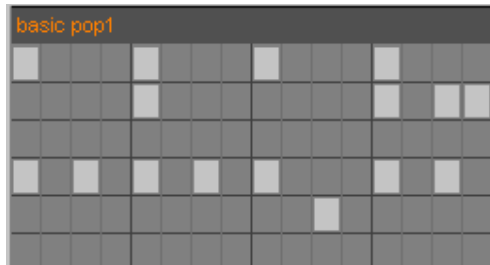
ブラウザが見えないときには“Window”メニューの“Browser”を選択してください。

### ドラムループエディター

ドラムループを編集するには、ドラムトラックパネルの ▶ ボタンをクリックして展開します。



### ビートを作る



ダブルクリック(または Alt+クリック)でドラムビートを升目に置きます。また、右クリックで消すことができます。これは再生中も行うことができ、リアルタイムビートを聞きながらいろいろ試してみることができます。

### ドラムループを保存する



納得行くドラムループができたなら、グリッド内で右クリック次ご“Save as...”を選んで保存しましょう。個々のドラムループは他のプロジェクトで再利用可能です。

### ヒント

- ブラウザからドラムループへ自分で作成したサンプルをドラッグ&ドロップ可能です。
- ドラムループはオブジェクトバーでスイング/シヤッフルを設定できます。
- プロジェクト内で好きなだけドラムトラックを追加可能です。

## Tutorial 3: ミキサーを使う

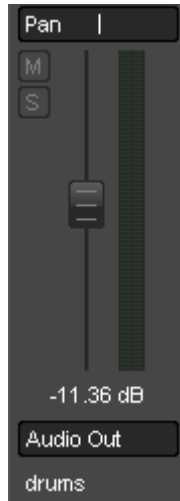
ここではミキサーの使い方やミックスやバランス、オーディオエフェクトの加え方を学びます。

### ミキサーを表示する



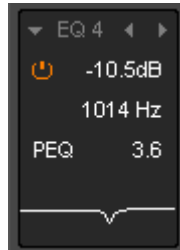
“Mixer”タブをクリックするとミキサーが開き、プロジェクト内のインストールメントやオーディオチャンネルが一覧できます。

### ボリュームやパンを調節する



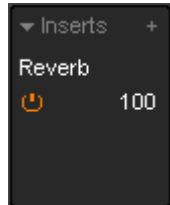
ボリュームやパンコントロールはチャンネルごとに用意されています。ボリュームはスライダーのノブをクリックしたままマウスを縦に動かすことでパンはPANセクション内をクリックしたままマウスを縦に動かすことで調節できます。

### EQを使う



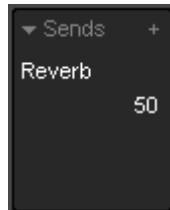
ミキサーには各チャンネルに4バンドEQが用意されています。EQは特定の周波数をブースト/カットするのに使われます。EQを設定するには“EQ”左のボタン ▶ をクリックして展開します。◀▶ ボタンのクリックによってEQの帯域を選べます。数値の上をクリックしたままマウスを縦に動かすことで値を調節できます。各コントロールがどのようにサウンドへ影響を与えるのかプレイして試してみましょう。各バンドのパワーアイコン ⏻ をクリックしてオンするのを忘れずに。

### インサートエフェクトを加える



インサートエフェクトを加えるには“Inserts”左のボタン ▶ をクリックして展開します。セクションの+マークをクリックし、メニューから望みのエフェクトを選択します。インサートエフェクトはチャンネルごとに設定可能です。

### SENDエフェクトを加える



SENDエフェクトを加えるには、“Sends”左のボタン ▶ をクリックして展開します。セクショ

ンの+マークをクリックし、メニューから望みのエフェクトを選択します。SENDエフェクトは全てのトラックで共有され、トラックごとにSENDレベルのみ設定可能です。

### ヒント

- F9 キーを押すとミキサーを開くことができます。
- エフェクトを加えるのはおもしろいのですが、加えすぎるとミックスがグシャグシャになり収拾つかなくなるかも？
- シーケンサービューでも選択されたトラックのミキサーチャンネルがあります。F7で表示/非表示を切り替えられます。

## Tutorial 4: シンセサイザーをプレイする

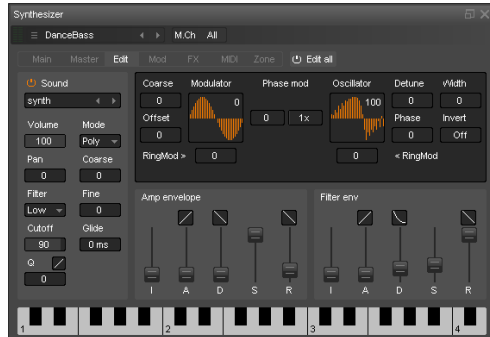
ここでは内蔵シンセサイザーの使い方について学びます。

### シンセサイザートラックを加える



シンセサイザーを加えるには、トラックパネル上部の ≡ + ボタンをクリックして“Synthesizer”を選びます。

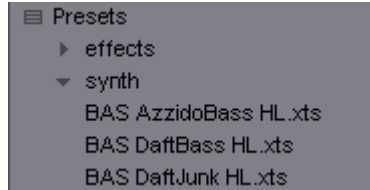
### シンセサイザーウィンドウを開く



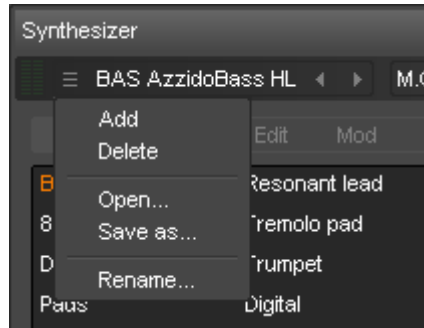
トラックの“Synthesizer”の文字をクリックするとサウンド編集用のウィンドウが開きます。“Edit”や“Mod”などのタブをクリックしてウィンドウを切り替えることができます。各コントロールを弄りながらプレイして自分のサウンドを作ってみましょう。

### サウンドの切り替え

ブラウザセクション“Presets” > “Synth”からドラッグ&ドロップで現在のサウンドを置き換えることができます。

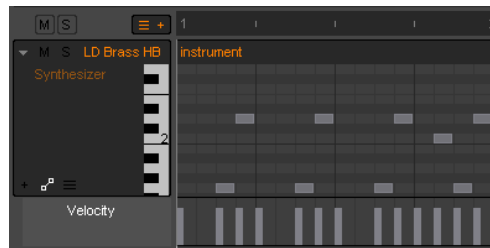


### 作ったサウンドを保存する



シンセサイザーウィンドウの左隣にあるファイルメニューの ≡ の部分をクリックして“Save as...”を選ぶことによってプリセットライブラリーに保存できます。保存したサウンドは他のプロジェクトでも使用できます。

### ノートの編集



グリッドエディターでノートを編集できます。編集を行うには、トラック内の ▶ ボタンをクリックして拡張してください。グリッドエディターが出ていない場合はアレンジウィンドウでダブルクリックして新しいパートを作ります。グリッドエディター内でダブルクリックしてノートを置きます。右クリックで消去できます。

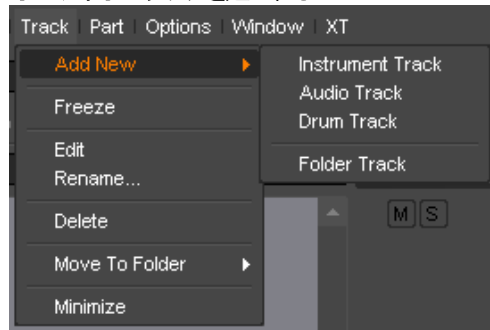
### ヒント

- MIDI キーボードを接続すればリアルタイムでプレイ/レコーディング可能です。
- どんなサウンドでもシンセサイザーに即座にロード可能です。
- オーディオエフェクトもミキサーのシンセサイザーの出力で使うことができます。

## Tutorial 5: ギターをレコーディングする

ここではレコーディングについて学びます。

### オーディオトラックを追加する

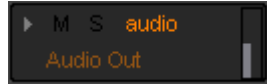


ギターをレコーディングするには最初にオーディオトラックを作る必要があります。

“Track”メニューの“Add New” > “Audio Track”で

行ってください。

## インプットをモニターする



ギターをプレイするとレベルメーターの振れが確認できると思いますが、レコーディング時に歪まないようにレベルにご注意します。

## レコーディング



ループボタンが無効になっているのを確認します。これで昔ながらのテープレコーダーのように録音できます。

## レコーディング



メトロノームを有効にするとレコーディング時にクリック音が聞こえます。

これはテンポをキープするのに役立ちます。

## レコーディング



レコードボタンを押してプレイします。初期設定ではレコーディングが始まる前にメトロノームは4ビートカウントオフします。

## レコーディング



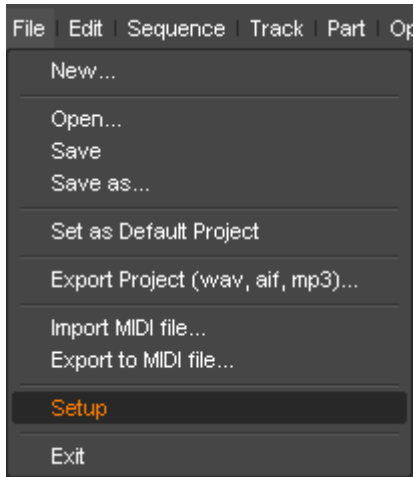
ストップボタンを押してレコーディング結果が確認できます。

## ヒント

- ・ ミスしました？ウィンドウ左上のやり直しボタンを押して再度トライしてください。
- ・ レコーディングする前にテンポをチェックしましょう。
- ・ リバーブエフェクトの追加で奥行きのあるサウンドでレコーディングできます。

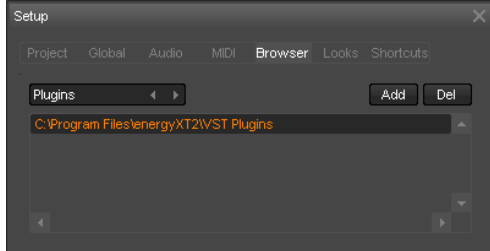
## Tutorial 6: VST プラグインのセットアップ

ここではenergyXTのセットアップについて学びます。



VST インストルメントとVST エフェクトを使うためにはまず、energyXTにVST プラグインのある場所を指定する必要があります。“File” > “Setup”. で行います。

## セットアップ



セットアップウィンドウが出たら、“Browser”タブをクリックし、ボタンを押して“Plugins”セクションを表示させます。

## VST プラグインフォルダーを指定する

“Add”ボタンをクリックします。フォルダーを選択するためのダイアログボックスが開きます。Windows では通常C:\Program Files\VstPluginsにあり、Mac ではライブラリ→Audio→Plug-Ins→VST にあります。



## VST プラグインフォルダーを指定する

フォルダーを指定したら[OK]をクリックし、[x]をクリックしてダイアログを終了させます。

## VST インストルメントを加える



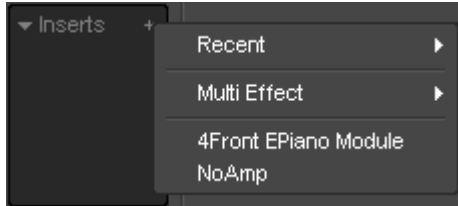
VST インストルメントをプロジェクトに加える方法は何種類もありますが、一つとしてブラウザーからVST インストルメントをトラックリストヘドラックする方法があり、これはそのインストルメントが選ばれた新しいトラックを作ります。

## VST インストルメントを加える



他の方法はボタンを使いドロップダウンメニューからVST インストルメントを選びます。

## VST エフェクトを加える



VSTエフェクトをインサートやセンドに追加した場合は“Inserts”や“Sends”セクションの[+]ボタンを使いドロップダウンメニューから望みのVSTエフェクトを選びます。VST インストルメントはインサートやセンドには使えません。